

第4章 西東京市の文化財の保存・活用に関する現状と課題

1 文化財を取り巻く環境

－「西東京市文化財保存・活用計画」を受けて－

本市では、合併前の田無市及び保谷市の文化財保護行政を受け継ぎ、指定制度による確実な文化財の保護を軸として、文化財の普及・活用事業を進めています。

特に近年は重点施策として、「(第1期)文化財保存・活用計画」策定中の2015年(平成27年)3月に国史跡に指定された「下野谷遺跡」について確実に未来につなげることができるように、国及び東京都との連携を図りながら、保存、調査、整備、活用を進めています。整備では、クラウドファンディングの手法を取り入れたところ、想定を超えた支援を集めることができ、市民の文化財に対する興味と意識の高さが明らかになりました。縄文時代の竪穴式住居2棟などが建設された史跡整備地には2023年(令和5年)に市民公募により「したのや縄文の里」の愛称が付き、今後はまちづくりや学校教育等と連携した積極的な活用が期待されています。

また、指定文化財以外の文化財については、建造物をはじめとした市域の文化財の調査を継続して実施しているほか、郷土資料室の収蔵資料のデータベース化を進めています。そのような調査研究を受けて、この8年間の間に、市の指定文化財は1件、国の登録文化財は7件増加しました。

文化財に関係する市民団体も多く存在し、自らの学びを進めているほか、縄文の森の秋まつりなど文化財の普及啓発事業を行政と協働で行っています。特に最近では、フリーペーパーを活用した文化財の発信や、SNSを活用した古い写真の収集、市民団体による研究活動、講演会やまち歩きなどの事業の開催など、新しい視点や手法を用いた活発な活動が行われています。

このように、指定文化財制度に基づく価値の高い文化財の確実な保護、文化財の継続的な調査・研究、郷土資料室での文化財の管理・活用、市民や市民活動団体、関係団体との協働による普及事業、市民の積極的な文化財保護活動等、「(第1期)文化財保存・活用計画」策定後、本市での文化財行政は着実に進んでいます。

しかしながら、全国的な傾向と同様、社会環境の変化、価値観の多様化、少子高齢化等により、文化財の保護が困難な事例が増加し、指定等一定の保護を受けていない文化財が散逸、消失する傾向にあり、確実に文化財を保護していく必要があります。

また、災害などの際にも必要な文化財の把握のリストにもなる登録文化財制度の策定や、文化財の収蔵、展示、調査研究に加え市民の文化財保護活動のプラットフォームともなる「地域博物館」の設置など残された課題も多くあります。

今後は、前章までに見てきた、西東京市の多様な歴史文化、文化財を市民が共有し、自らの郷土の財産として大切に思えるよう、新たな価値を創造し、「住みたいまち、住み続けたいまちづくり」や心の豊かさや安定、健康や幸福感といった「ウェルビーイング」の向上にも活用していくことが求められます。

2 市のこれまでの取組

(1) 文化財保存・活用の拠点

■ 郷土資料室 概要

- 場 所 西東京市西原町四丁目5番6号 西原総合教育施設内
 開室日 日曜日及び水曜日から土曜日まで（年末年始を除く。）
 展示物 ジオラマによる西東京市の歴史12景
 旧石器時代（石器）、縄文時代（土器、石斧、石鏃等）、鎌倉・室町時代（板碑等）、江戸時代（高札、葎山笠等）、明治時代（自家製乳母車等）

■ 郷土資料室 来室者数推移

（単位・人）

年度	計	幼児	小学生	中・高校生	一般	団体
令和4年度	2,165	62	142	38	1,336	587
令和3年度	2,236	155	210	52	1,340	479
令和2年度	2,044	138	224	39	1,033	610
令和1年度	2,269	80	268	36	1,210	675
平成30年度	1,714	54	231	44	759	590
平成29年度	2,472	301	346	63	1,141	621
平成28年度	2,981	341	397	45	1,380	818
平成27年度	2,799	197	305	75	1,395	827



郷土資料室 外観



展示室4 手作り歴史ジオラマ

(2) 文化財普及啓発事業 (令和4年度分)

項目	種別	事業名	開催日	場所	参加延べ人数(人)
夏休み企画	体験	トレジャーハンター 歴史の宝ものさがし!	令和4年7月23日 から8月28日まで	郷土資料室	32
	学習支援	自由研究応援ウィーク	令和4年7月23日 から8月28日まで	郷土資料室	18
文化財ウィーク	展示	郷土資料室特別展 思い出の中の風景 -定点写真で見る田無の昭和と今-	令和4年10月29日 から12月25日まで	郷土資料室	328
	展示	第13回 秋の屋敷林企画 保谷のアイ ~尾張徳川のお鷹場~	令和4年11月3日	下保谷四丁目特別緑地 保全地区	約400
	体験	第16回 縄文の森の 秋まつり ~したのやムラにおかえり なさい!しーたとのーやも 待ってます~	令和4年10月2日	下野谷遺跡	約1,000
その他	展示	下野谷遺跡特別展 on 下 野谷遺跡 コノシタ、ココモ、 シタノヤイセキ	令和4年5月11日 から5月25日まで	東伏見 市民集会所	380
	体験	竪穴式住居復元工事 見学会	令和5年2月5日 2月19日	下野谷遺跡	128



郷土資料室特別展「思い出の中の風景」



保谷のアイ

(3) 他の関係団体との連携（令和4年度分）

- 多摩郷土誌フェア（連携先 東京都市社会教育課長会文化財部会）
実施日 令和5年1月21日、1月22日
会場 立川市女性総合センターアイム
- 科学の視点で考古学（連携先 多摩六都科学館）
実施日 令和4年6月5日
会場 多摩六都科学館
- プラネタリウム（連携先 多摩六都科学館）
実施日 令和5年3月18日
会場 多摩六都科学館
- 下野谷遺跡 デジタルアーカイブ（連携先 図書館）
実施日 令和5年3月から
会場 西東京市図書館ホームページ内
- ドキ土器考古学（連携先 公民館）
実施日 令和5年2月19日・26日
会場 郷土資料室・芝久保公民館



科学の視点で考古学



多摩郷土誌フェア

(4) 他課の文化財関連の取組 (ヒアリング実施課のみ記載)

■ 公民館

【市刊行物による文化財情報の提供】

- ・ 公民館だよりの地域にかかる連載記事の中で、市の文化財や歴史文化等について紹介。(令和4年度：第257号、第261号)

【公共施設等での文化財情報の提供】

- ・ 市内他課からの依頼に基づき、文化財にかかわるイベント等情報のポスターの掲示やチラシの配架等。

【郷土資料室・図書館と連携した事業の実施】

- ・ 下野谷遺跡や戦争遺跡等を取り上げた主催講座を開催。
- ・ 芝久保公民館が、社会教育課と共催で、親子おたのしみ企画「ドキ土器考古学～縄文時代にタイムスリップ～」を開催。
- ・ 芝久保公民館主催で、市内の戦争遺跡を巡る平和について考える講座「この町にも戦争があった～戦跡フィールドワーク～」を開催。
- ・ 保谷駅前公民館が、高橋家屋敷林保存会と共催で、旧高橋家母屋を会場に旧下保谷村の民俗を追体験する、地域講座「瞽女唄が聞こえる」を開催。

■ 図書館

【市刊行物による文化財情報の提供】

- ・ 文化財について記載のある市報やパンフレット・リーフレット等を配布できるよう図書館内に設置、また図書館所蔵資料として市民に情報を提供。

【公共施設等での文化財情報の提供】

- ・ 文化財に関わるイベント等情報を図書館内の掲示板掲示、配布。

【下野谷遺跡等の遺跡を活用した生涯学習への活用】

- ・ 図書館ホームページの下野谷遺跡関連資料等の紹介コーナーで市内の遺跡に関する所蔵資料を紹介。
- ・ 図書館ホームページの下野谷遺跡関連写真コーナーで図書館が所蔵している下野谷遺跡の写真を紹介。

【その他の文化財の保存・活用・発信】

- ・ 市指定文化財「地租改正絵図」「田無村御検地帳」、その他「保谷大絵図」などの図書館所蔵資料について、電子化し西東京市デジタルアーカイブとしてWeb公開。



図書館内の展示

■ 教育指導課

【出前授業への講師派遣】

- ・ 出前授業への講師の派遣/取組：総合的な学習の時間（ふるさと探究学習）等を通して、小学校で下野谷遺跡について調べ学習等を行った。また、小学校第3学年の社会科の時間では、昔の道具に関する出前授業を実施。

【文化財を活用した学習の推進】

- ・ 文化財等を活用した学習の推進/郷土意識の醸成のため、授業において、下野谷遺跡等、本市における文化財や郷土資料室の活用を推奨した。小学校の社会科見学で、下野谷遺跡への見学を推奨した。

■ 産業振興課

【農とのふれあいによる地域の歴史・文化の理解の充実】

- ・ 市内小学生を対象として「葦の里」にて、昔と今の農業、農具の違い等の学習を実施。令和4年度2校計5回実施。

■ 協働コミュニティ課

【戦争遺産や文化財を活用した平和学習の推進】

- ・ 市内戦争遺跡を巡る、ピースウォークを実施（令和5年度）。

■ みどり公園課

【みどりの景観を活用した地域の魅力づくりの推進】

- ・ 西東京自然を見つめる会の協力により「みどりの散策マップ」（平成29年3月発行）を作成。本マップにおいては、みどりや文化財等の地域資源を考慮した散策コースを設定し、「みどりの散策路めぐり」を実施。

【自然的・歴史的な景観の保全と魅力ある景観形成】

- ・ 下保谷四丁目特別緑地保全地区保全活用計画（令和4年3月発行）に基づき、下保谷四丁目特別緑地保全地区において、景観を保全しつつ、将来的な常時施設開放に向けて高木の段階的な強剪定等に取り組んだ。高橋家屋敷林保存会との協働により日常の維持管理、一般開放や季節のイベントを実施した。

3 市民の意識調査

(1) 各調査実施概要

市民意識を把握するため、次のアンケート及びヒアリングを実施しました。

① 市民アンケート

調査対象	: 西東京市住民基本台帳に登録された15歳（高校生）以上の男女
標本数	: 1987件（2000件配布、13件宛所なしにより返送）
抽出方法	: 住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	: 郵送によるアンケート調査票の配布・回収（紙面またはWEB回答）
調査期間	: 令和5年10月17日～10月31日
質問内容	: ○文化財全般に対する普段の意識 ○市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験 ○文化財の保存・活用を推進する為に必要な場や機能
有効回収	: 538票（有効回収率27.1%）

② 小・中学生アンケート

調査対象	: 市立の小・中学校に通う児童（小学5年生）・生徒（中学3年生）
標本数	: 595人（小学生258人、中学生337人）
調査方法	: 学校を通して紙アンケートの配布・回収
調査期間	: 令和5年10月17日～10月31日
質問内容	: ○文化財全般に対する普段の意識 ○市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験 ○文化財の保存・活用を推進する為に必要な場や機能
有効回収	: 562票（有効回収率94.5%、小学生241票、中学生321票）

※①及び②の調査分析における田無地域と保谷地域は下記の通り区分しています

田無地域・・・田無町、南町、西原町、緑町、谷戸町、北原町、向台町、芝久保町

保谷地域・・・新町、柳沢、東伏見、保谷町、富士町、中町、東町、泉町、住吉町、ひばりが丘、ひばりが丘北、栄町、北町、下保谷

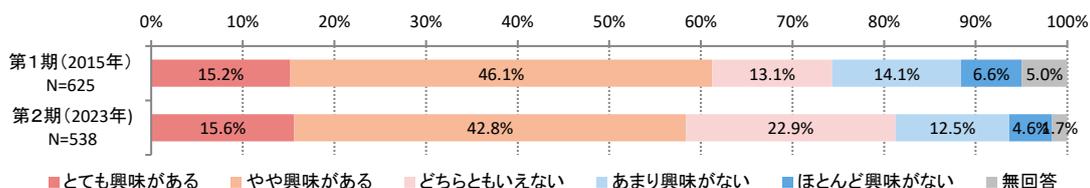
③ 市民活動団体へのヒアリング調査

調査対象	: 文化財に関わる市民活動団体
調査期間	: 令和5年11月～12月
対象団体数	: 4団体（下保谷の自然と文化を記録する会、速間流田無ばやし保存会、中部地域協カネットワーク、東伏見商栄会）

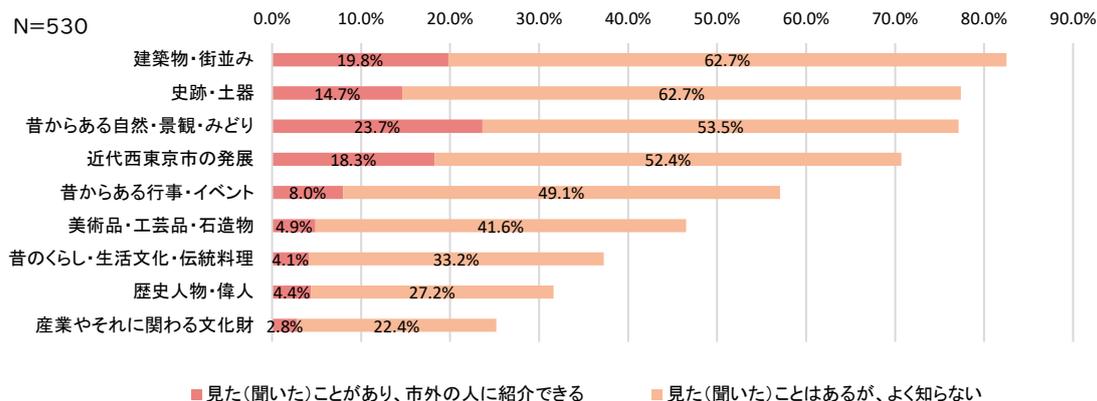
(2) 市民（15歳以上）の意識調査結果

市民の文化財への興味

- ✓ 文化財への興味がある市民（「とても興味がある」「やや興味がある」の合計）は第1期計画策定時には61.3%に対して、本調査では58.4%とやや減少しています。
- ✓ 文化財への興味がない市民（「あまり興味がない」「ほとんど興味がない」の合計）は第1期計画策定時の20.7%に対して、本調査では17.1%となっており、こちらもやや減少しています。



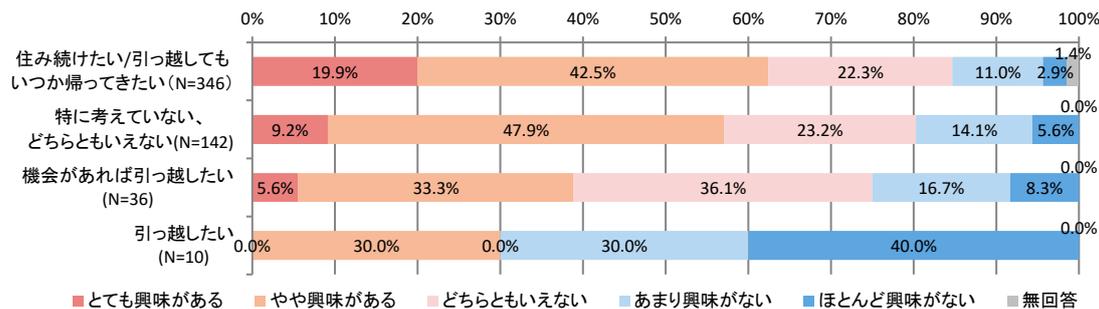
市民が認知している文化財



■ 属性別の分析

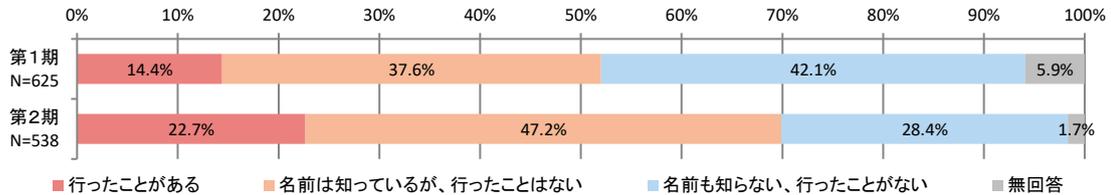
〈西東京市に住み続けたい市民の文化財への興味〉

- ✓ 「西東京市に住み続けたいと思うか」と「文化財の興味」の質問をクロス分析した結果、「住み続けたい」と考えているの方が、文化財に対して興味を持っている傾向が見られました。

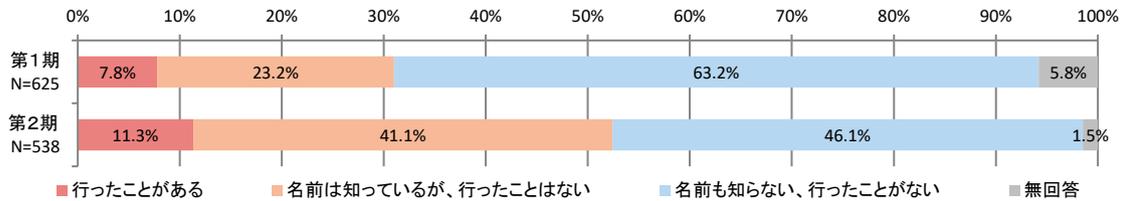


下野谷遺跡と郷土資料室の認知度

- ✓ 【下野谷遺跡】第1期計画策定時と比較して、本調査では認知している市民（「行ったことがある」「名前は知っているが行ったことはない」の合計）は17.9ポイント増となり、約70%が認知しています。
- ✓ 一方で「行ったことがある」市民は22.7%と、市民の方の来訪経験はまだ少ないといえます。



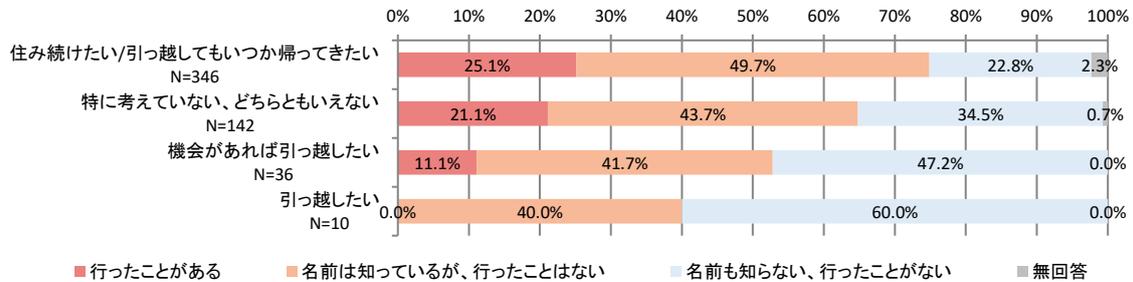
- ✓ 【郷土資料室】第1期計画策定時と比較して、本調査では認知している市民（「行ったことがある」「名前は知っているが行ったことはない」の合計）は21.4ポイント増となりました。



■ 属性別の分析

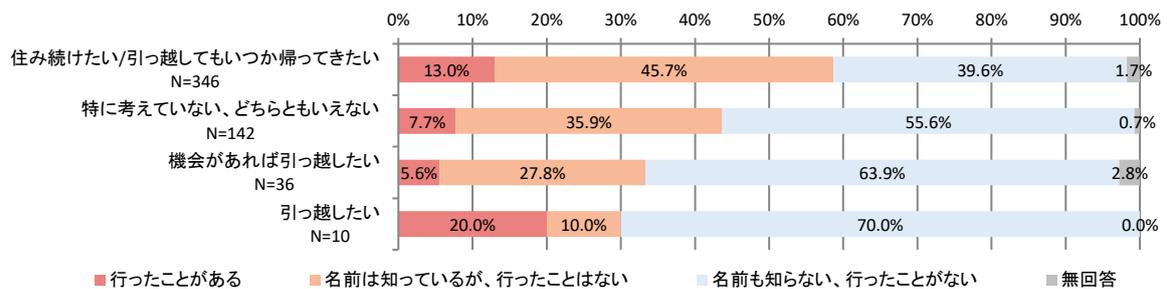
〈西東京市に住み続けたい市民の下野谷遺跡の認知度〉

- ✓ 住み続けたいと思っている市民が下野谷遺跡への来訪経験が多い傾向にありました。



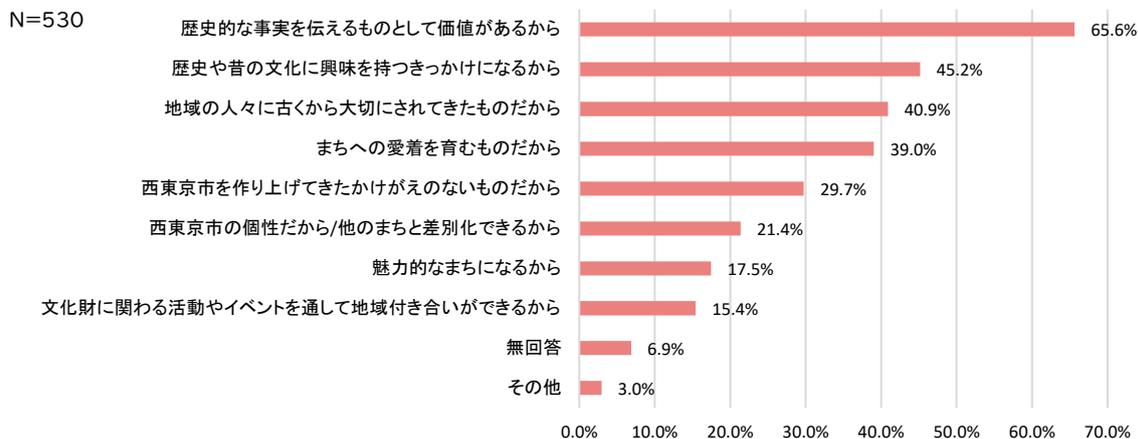
〈西東京市に住み続けたい市民の郷土資料室の認知度〉

- ✓ 住み続けたいと思っている市民と郷土資料室への来訪経験にあまり相関は見られませんでした。



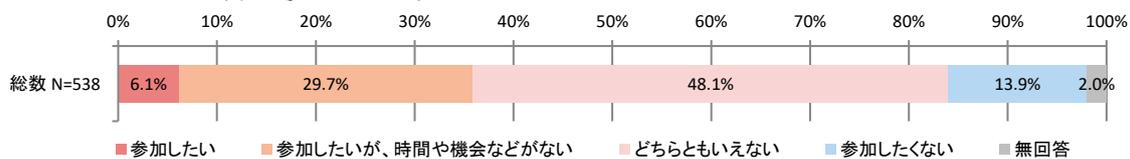
文化財を保存することの意味（複数選択）

✓ 「魅力的なまちになるから」「文化財に関わる活動やイベントを通して地域付き合いができるから」といった項目の回答割合が低く、文化財を守ることが、生活の豊かさや、暮らしやすさに寄与している、と感じている市民は少ないといえます。



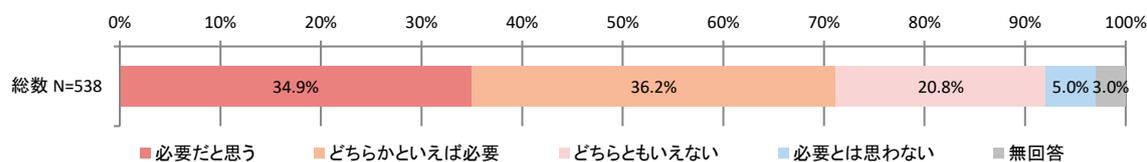
文化財に関わる活動に参加する意思

✓ 参加したいと考えている市民（「参加したい」「参加したいが時間や機会などが無い」の合計）は35.8%と3割を超えています。



文化財の保存活用を推進する為の場や機能について

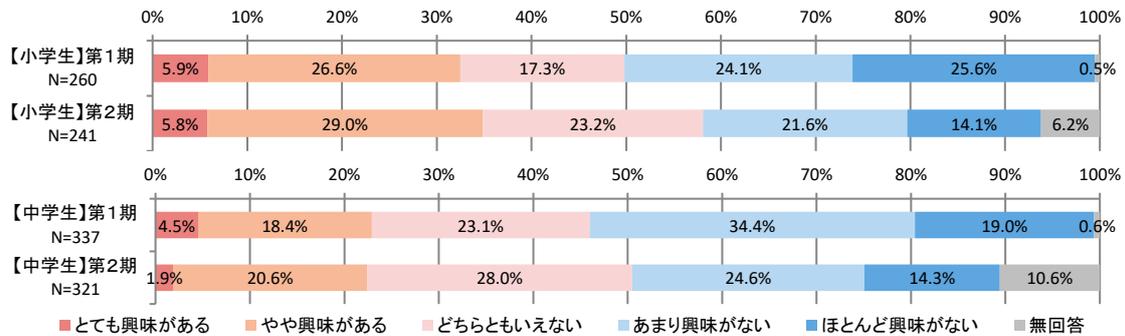
✓ 文化財の保存活用を進める博物館のような場が必要だと感じている（「必要だと思う」「どちらかといえば必要」の合計）は71.1%でした。



(3) 小学生・中学生の意識調査結果

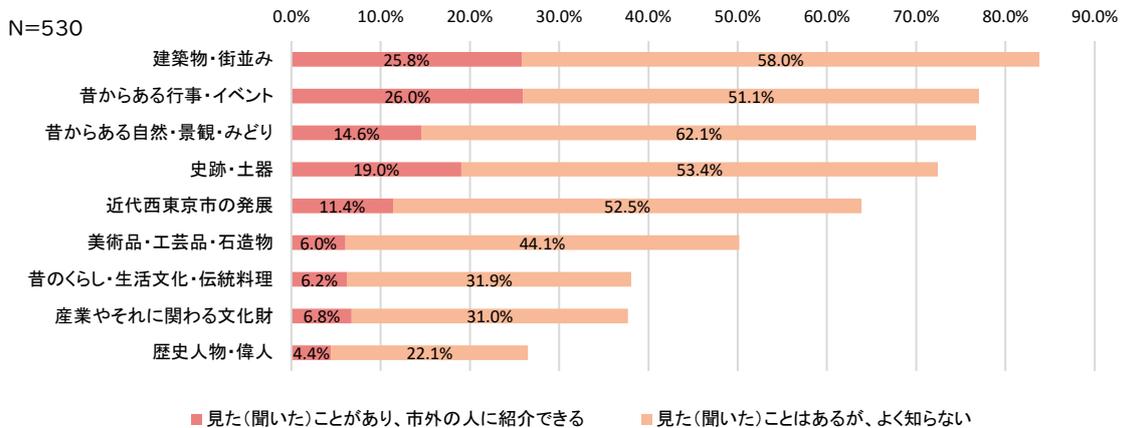
小中学生の文化財への興味

- ✓ 小中学生ともに文化財に興味がある児童・生徒（「とても興味がある」「やや興味がある」の合計）はほぼ変化が見られず、小学生の34.8%、中学生の22.5%が文化財に興味を持っていました。



小中学生が認知している文化財

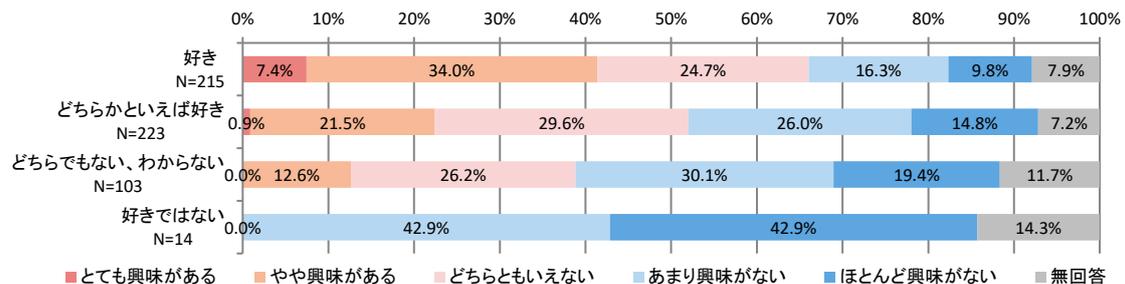
- ✓ 「昔の暮らし・生活文化・伝統料理」「産業やそれに関わる文化財」など、西東京市の生活や産業に関わる文化財への認知度が低い傾向が見られました。



■ 属性別の分析

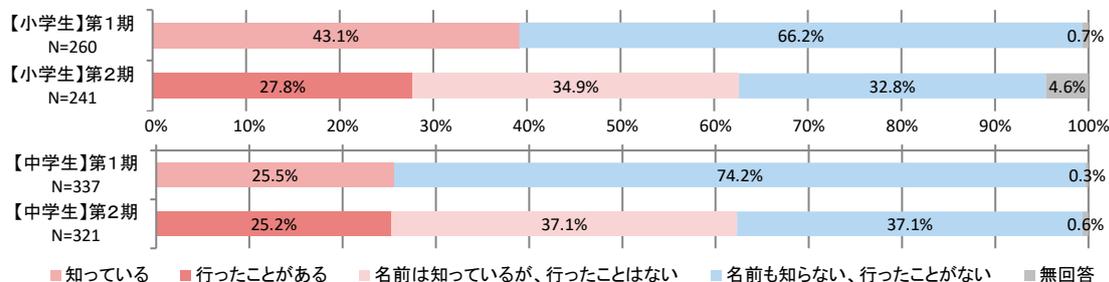
〈西東京市を好きな小中学生の文化財への興味〉

- ✓ 西東京市を好きと答えた小中学生の方が、文化財への関心が高い傾向が見られました。

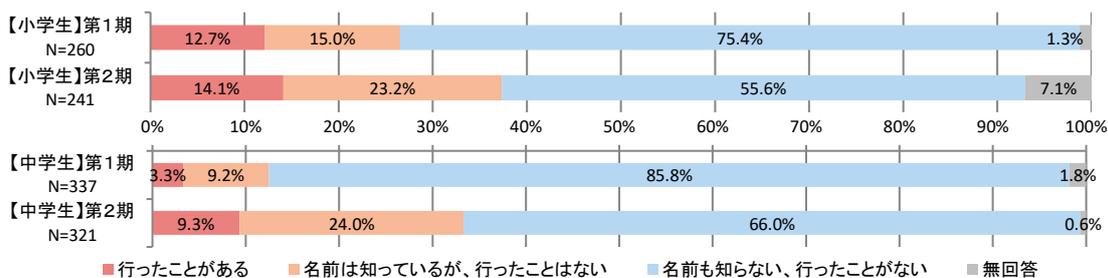


下野谷遺跡と郷土資料室の認知度

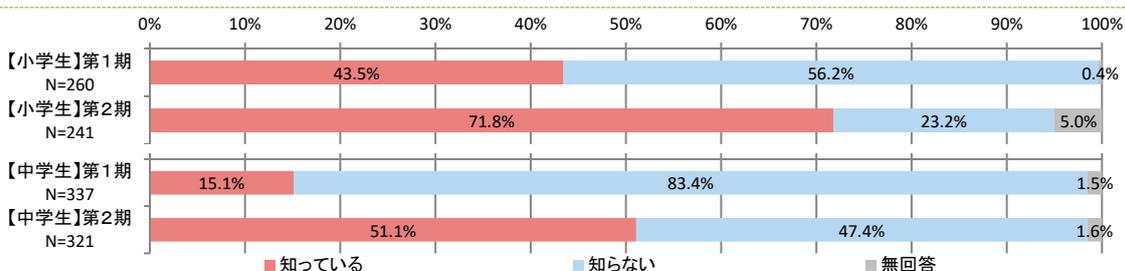
- ✓ 【下野谷遺跡】小中学生共に、下野谷遺跡の認知度（「行ったことがある」「名前は知っているが、行ったことはない」の合計）が上がっており、小学生は43.1%から62.7%に19.6ポイント増、中学生は25.5%から62.3%に36.8ポイント増となりました。



- ✓ 【郷土資料室】小中学生において、郷土資料室の認知度（「行ったことがある」「名前は知っているが、行ったことはない」の合計）は上がっているものの、「行ったことがある」は、小学生は12.7%から14.1%、中学生は3.3%から9.3%とやや増加しました。

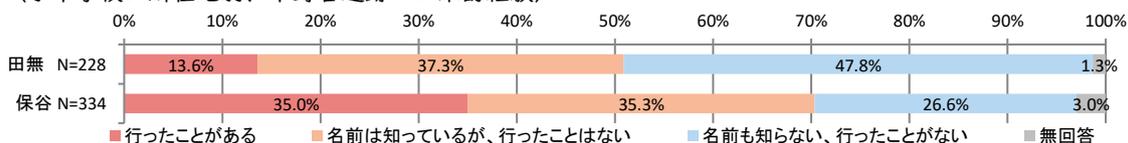


しーたとのーやの認知度



属性別の分析

〈小中学校の所在地別、下野谷遺跡への来訪経験〉

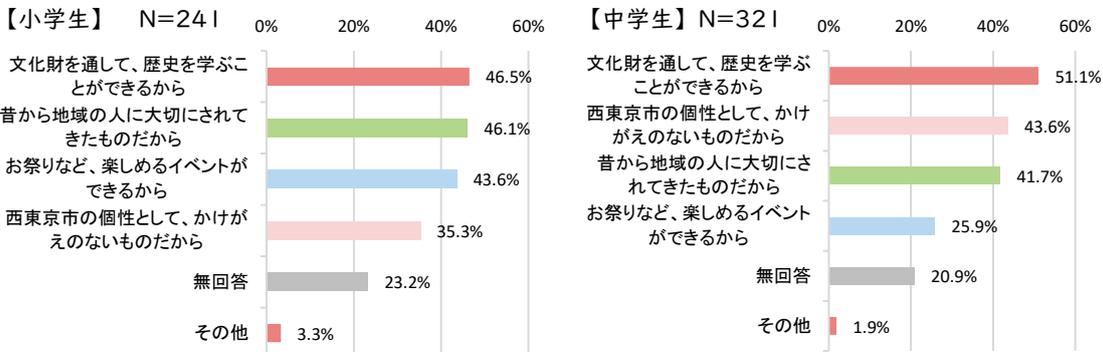


〈小中学校の所在地別、郷土資料室への来訪経験〉



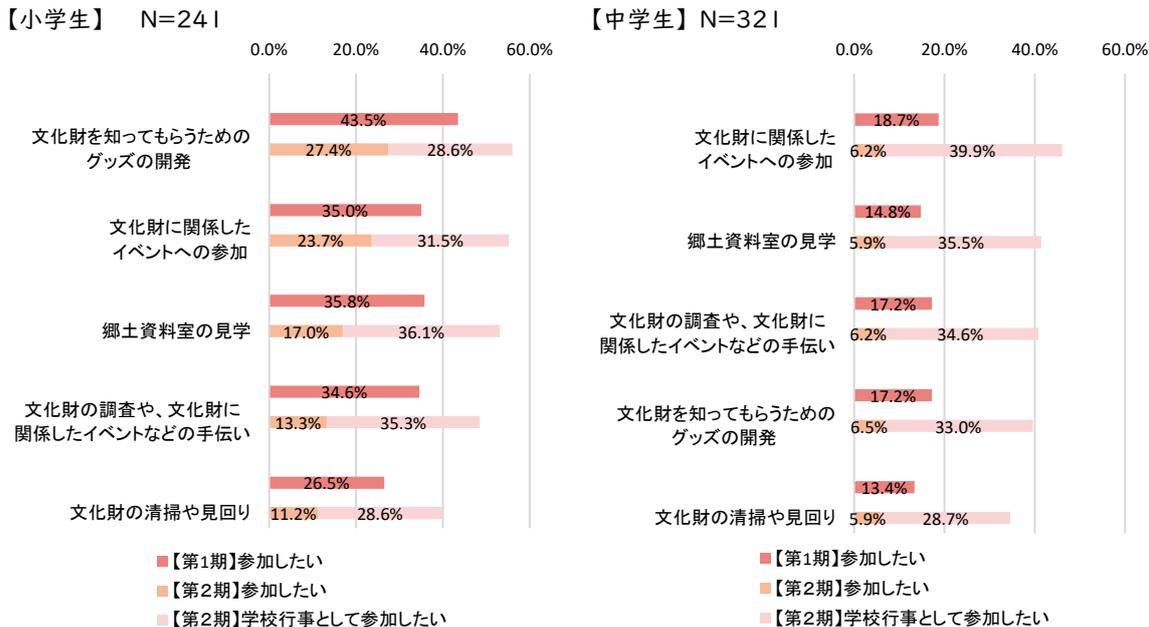
文化財を保存することの意味（複数選択）

✓ 小中学生共に「昔から地域の人に大切にされてきたものだから」の回答が4割以上と高く、身の回りの大人たちの文化財への想いから文化財の大切さや価値を学んでいると考えられます。



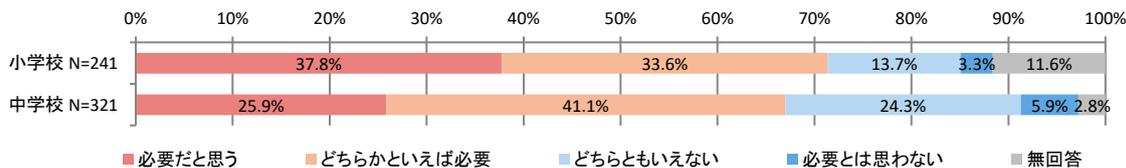
参加してみたい活動（複数選択）

✓ 小学生が最も参加してみたい活動は「文化財を知ってもらうためのグッズの開発」となっており、歴史・文化に関連するアウトプットの場合が必要とされているとも考えられます。
 ✓ 中学生においては「学校行事として参加したい」が3割と高く、学校教育の重要性が伺えます。



文化財の保存活用を推進するための場や機能について

✓ 博物館のような場や機能が必要だと考えている児童・生徒（「必要だと思う」「どちらかといえば必要」の合計）は小中学生共に、約7割となっていました。



(4) 市民活動団体・商店会等の活動及び意識の状況

■ 活動状況

本市における市民活動団体の活動状況の一例として、次のような動きが見られます。

- ・市の歴史文化を学ぶ為に、歴史をよく知る地域人材を講師とした講座の実施。
- ・文化財マップを活用したまち歩き等の実施。
- ・お祭りにおける田無ばやしの披露や、田無ばやしの後継者の育成。
- ・西東京市の歴史文化に関する調査と発信。
- ・小中学校における藍栽培と藍染体験の実施。
- ・「保谷のアイ」の実施。
- ・民族学博物館に関連する資料の収集・調査・情報発信。

■ 文化財の保存・活用に対する意見

〈西東京市の歴史や文化財のPRや学習環境について〉

- ・文化財マップを持って散策（まち歩き）を行っているが、コース等が設定してあるので面白い。一方でマップを配布している場所がわかりづらく周知が行き届いていない。
- ・地域の歴史や大切な文化財について知っている人はたくさんいる。その人たちから直接話を聞く機会が重要。
- ・下野谷遺跡というスポットはあるが、市全体の歴史や文化財を語れる場所がない。
- ・文化財を守ることにもお金がかかっているということも含めて理解していく必要がある。
- ・小学校での体験授業は担当の先生の協力が不可欠。
- ・歴史文化に関係する技術や文化を教える人材が少なく、また高齢化している。

〈歴史や文化財の調査・保存について〉

- ・西東京市の伝統を継承することが困難。年々人が減ってきている。
- ・写真や動画で積極的に保存していく事で、口伝などの文化が途絶えてしまっても復元できる可能性があるのではないかと。
- ・まちぐるみで大切にしようとしないと、守っていくことは難しい。
- ・歴史文化に関する重要な資料が、一般の家庭の蔵などに眠っており、そのまま捨てられてしまうことがある。

〈市民活動の展開について〉

- ・行政の持っている学校や人とのつながりを生かして市民活動を助けてほしい。
- ・神社等のお祭りだけでなく、市内のイベントにも市の文化を披露できる場があると良い。
- ・小中学校で歴史文化に関する教育を充実させてほしい。

4 文化財の保存・活用の課題

ここでは、第1期計画で達成できたことと、市民アンケートや市民団体へのヒアリングから見えてきた課題をまとめ、次章からの目標設定とその目標を達成するための具体的な取組につなげます。

(1) 第1期計画で達成できたこと

- 建造物、埋蔵文化財の調査。
- 調査員制度の導入と総合調査。
- 文化財の指定（市指定文化財第50号 天神社拝殿）。
- 国文化財の登録（高橋家・下田家 計7件）。
- 郷土資料室収蔵資料や下野谷遺跡の出土品、出土遺構のデータベース化。
- 文化財資料のデジタル化（下野谷遺跡の土器を3D化）。
- 指定文化財の確実な管理。
- まちなか先生など学校教育での文化財の活用。
- シニア大学など生涯学習での文化財の活用。
- 下野谷遺跡シンポジウムなど講演会の開催。
- 縄文の森の秋まつり、保谷のアイなど市民協働事業の実施。
- 圧痕倶楽部など市民もともに行う調査研究の実施。
- キャラクターを用いたグッズの作製。
- 多摩六都科学館や市内大学との連携。
- 郷土資料室での企画展等の実施。
- 下野谷遺跡の追加指定と公有地化。
- 下野谷遺跡の保存活用、整備計画の策定。
- 下野谷遺跡の整備。
- 下野谷遺跡におけるクラウドファンディングの実施とムラびと制度の設定。

(2) 各調査から見えた課題

■ アンケート結果から

- 興味がない、文化財を認知していない市民の減少。
 - 下野谷遺跡をはじめとする普及事業の効果の可能性。
 - ⇔ 一方で興味がある市民は増えていない。（見学者を呼ぶ仕組み・施設）
- 学校教育では一定の効果がみられるが、文化財へのアクセスのし易さで効果が異なる。
- 文化財により、西東京市民といったアイデンティティは持ちにくい。あるいは持っていない。
- 文化財を通じた活動によって社会とつながる感覚を持っていない。
- しーたとのーやなどキャラクターによる普及は一定の効果がある（特に児童）。
- 博物館のような文化財保護の拠点を求める声は70%を超える。

- 市民団体のヒアリング結果から
 - 文化財や文化財に関連する資料などの周知が不足している。
 - 文化財の所有者、文化財に関わる人が高齢化している。
 - 下野谷遺跡のようなスポットはあるが市の歴史全体を知り、学ぶ場所がない。
 - 後継者の育成が困難。
 - 文化財の維持管理には財政的に負担が大きい。
 - 学校教育での継続的な活用がやや不足。
 - 文化財に触れる場、文化財を披露する場が少ない。
 - 価値を認識されずに廃棄される文化財が一定数ある。
- ワークショップ、パネル展示から
 - 文化財に楽しく関わる場が不足（カフェ、グッズ、キッチンカーなど）。
 - 文化財の解説板や案内所などがまちなかに不足。

(3) 見えてきた今後の課題

- 継続課題
 - 指定文化財に加え、新たな文化財保護制度が必要（登録文化財制度）。
 - 未指定文化財の把握と調査（総合調査の実施など）が足りない。
 - 確実な文化財の保存・継承の仕組みづくりが必要。
 - 文化財の価値の周知と後継者育成が喫緊の課題。
 - 市民力の活用。
 - 多様な連携。
 - 下野谷遺跡の管理・ガイダンス機能の強化。
 - 文化財保護の拠点施設（地域博物館）の設置。
- 新たな課題
 - 文化財の把握、記録、情報発信の新たな手法の開発（デジタルの活用等）が必要。
 - 市の文化財を総説する資料がない（西東京市史）。
 - 文化財を認知していない市民が一定数いる。
 - まちなかで文化財に触れる場が少ない。
 - 文化財に興味を持つ市民が学ぶ場、活躍する場が少ない。